

1. 鹿児島県

- ・視 察 者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 鹿児島県庁
- ・視察日時 令和4年7月25日（月） 午後1時30分から午後2時00分
- ・視察項目 大河ドラマを利用した観光振興とその後について
- ・説 明 員 鹿児島県 観光・文化スポーツ部 PR 観光課 青井 謙 氏

・視察内容・目的

大河ドラマの舞台として鹿児島市をはじめ県内がロケ地となるにあたり、鹿児島県ではどのようなバックアップを行ったのか。

・要旨（報告事項）

鹿児島県の取組としては、まず県内外への情報発信として、イベント等による情報発信を行ったり、パブリックビューイングやキャストトークショーなどを通して、広く県内外へ宣伝を行った。パブリックビューイングでは、二階堂ふみや鈴木亮平等ドラマ出演者などによるトークショーなどを行った。イベントPRの出展としてダイエー、桜島サービスエリアなどにパネルを展示するなど観光PRを実施した。ウェブアプリによる情報発信なども行った。西郷どんキャンペーン公式ウェブサイト、公式facebook「西郷どんどんかごんま」、公式twitter「西郷どんかごんま」、ウェブ町めぐりマップなどを行った。

広報広告による情報発信としては、雑誌や新聞広告、パブリシティによる掲載、県政広報、番組広報誌による掲載、パンフレットなども作成した。

また東京都大田区と連携してプロモーション事業も行った。さらにインフルエンサーを活用した取り組みとして、霧島地区を中心とした誘客プロモーションや、南薩地区大隅地区を中心とした誘客プロモーション、スタンプラリーなどを行った。

鹿児島空港、JR鹿児島中央駅、鹿児島空港発リムジンバス、NEXCO西日本サービスエリアなどの交通拠点施設への装飾、キャラクターのイラストを使用した看板装飾やキャンペーンソングを活用した放送を実施した。

広報宣伝素材の作成パンフレット等の作成特典付フリーマガジン特定どんどん西郷 観光アクティビティパンフレット、観光アクティビティパンフレットノベルティ作成ロゴマークキャラクター、イラストの管理、旅行商品造成なども行った。このほかにロケ支援等々を行ったとのことである。

・視察結果、所感

鹿児島県の大河ドラマに対する熱い想いが感じられた。それと同時に多くの取組を行ったことが分かった。埼玉県でも渋沢栄一が大河ドラマで放映されたがどのような宣伝支援がおこなわれたのか。もう少し埼玉県でも観光客増加につながる取り組みをすべきだと考える。

2. 鹿児島県鹿児島市

- ・視察者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 鹿児島市役所
- ・視察日時 令和4年7月25日（月） 午後4時00分から午後5時00分
- ・視察項目 大河ドラマを利用した観光振興とその後について
- ・説明員 鹿児島市 観光交流局観光交流部観光プロモーション課 米重 浩之 氏

・鹿児島市概要

鹿児島市は九州の南端に位置する鹿児島県本土のほぼ中央にあつて、面積は547.07km²。活火山桜島という世界に誇れる自然景観を有する風光明媚な都市であり、南九州の中核都市にふさわしい人口60万人の県都である。

・視察内容・目的

鹿児島市における大河ドラマを利用した観光振興とその後について

鹿児島市の観光統計によると、平成30年度は入込観光客数が過去最高の10,194千人となった。これは過去のNHK大河ドラマ『翔ぶが如く』『篤姫』を大きく超える人数であった。また、九州新幹線全線開業も後押しした。また、宿泊観光客数も過去最高の410万人となった。これによる経済効果は258億円となった。

・要旨（報告事項）

主な取組は、明治維新150年維新のふるさと鹿児島市PR事業として、鹿児島市ゆかりの偉人「西郷隆盛」「篤姫」「大久保利通」に扮した鹿児島観光維新隊による全国でのPR活動など、薩摩の歴史やそれを育んだ鹿児島市の多彩な魅力をアピールした。鹿児島市観光PRキャラクター「西郷どん」は、市内を中心としたおもてなし活動を行った。

明治維新150周年街中おもてなし事業として、鹿児島市ゆかりの偉人「西郷隆盛」「篤姫」「大久保利通」に扮した薩摩観光維新隊による全国でのPR活動など薩摩の歴史やそれを育んだ鹿児島市の多様な魅力をアピールした。

また、さまざまな市民向けのイベントを実施することにより明治維新150年に興味関心をもってもらい、その機運の醸成を図るため、明治維新コレクションを実施した。その例として、シンポジウム講座トークショーの実施、薩長同盟坂本竜馬新婚旅行150周年記念シンポジウムなどを行った。

その他、バスツアー街歩きイベント、明治維新150年カウントダウンウルトラクイズ、屋台村演劇明治維新でハロウィンアフタヌーンティーパーティー屋台村などを行った。

さらに、ラッピングバス、ラッピング電車の運行、明治維新150年を迎える平成30年に向けてさらに多くの市民や観光客の機運を高めるため、市内を走る定期観光バスおよび自然の車両を、ラッピングを施した車両に変更した。

さらに大河ドラマ館を設置し、入場者数は553,052人に達した。

・視察結果、所感

新型コロナの影響もあつたが、順調に観光客入込数は増加している。『翔ぶが如く』、『篤姫』、そして『西郷どん』。10年ごとに大河ドラマの舞台となる歴史的文化的遺産を有する地域でもあり、なかなか埼玉県と比較することはできないが、市も県も積極的に観光事業に取り組んでいるように感じられた。観光資源を十分に活かし、その魅力をアピー

ルし、観光客の増加に繋がっている。その経済効果は『西郷どん』258億円、『篤姫』262億円に上る。

埼玉県でも『青天を衝け』『鎌倉殿の13人』では大河ドラマの舞台となっているが、あまりにもPRが少ないように感じられる。

3. 鹿児島県指宿市

- ・視 察 者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 鹿児島県指宿市役所
- ・視察日時 令和4年7月26日（火） 午前9時30分から午前11時00分
- ・視察項目 大河ドラマを利用した観光振興とその後について
(現地視察)大河ドラマ由来の観光ルートについて
- ・説 明 員 鹿児島県指宿市 産業振興部観光課観光企画係 田之上 秀樹 氏

・指宿市の概要

指宿市は薩摩半島の最南端に位置する人口 37,936 人、面積 148.80km²の花と緑にあふれた食と健康の町である。東は錦江湾を隔てて大隅半島と対峙し、北は鹿児島市、西は畑作地帯が広がる南九州市と隣接している。南は東シナ海に望み、中央部には九州一の大きさを誇る池田湖。市の全域を霧島火山脈が縦断しており、世界に類を見ない天然砂むし温泉をはじめ豊富な温泉に恵まれている。また、一日に 10 万 t も湧き出る豊かな水環境を有する地域は、そうめん流しで有名で国土交通省の水の郷百選に認定されている。

・視察目的

指宿市における大河ドラマを利用した観光振興とその後について

・要旨（報告事項）

○観光の現状と施策の概要について

鹿児島市下鍛冶屋町に生まれ育った西郷隆盛は、指宿市内の温泉地にも度々訪れており、中でもうなぎ温泉には明治7年に犬13匹を連れて一ヶ月ほど滞在した。これらのゆかりの地や歴史を通して西郷隆盛の魅力を紹介するとともに、幕末から明治にかけて指宿の地が果たした役割、そして歴史と自然に恵まれた指宿の魅力を多くの方に知ってもらうために、『指宿 西郷どん館』をはじめとする観光客受け入れ体制の整備を行った。他にもうなぎ温泉まち歩きガイド、ゆかりの地めぐりバス、うなぎ温泉の各種整備事業、うなぎ温泉郷マップ作成などを行っていた。

○観光客の入込状況

昭和48年前後、130万人をピークに大河ドラマ放映などで一時的には回復するものの、長期的には滑らかな減少が続いている。令和2年に入り新型コロナウイルス感染症が蔓延し、その影響は予想以上に長期化するなかで令和3年も大幅な減少となった。個人客はこれまで若干の増減はあるものの概ね現状を維持してきたが、令和2年に新型コロナウイルスの感染拡大により激減している。団体客は減少の一途をたどっており、令和2年の新型コロナウイルスの感染拡大が減少に拍車をかけている。日帰り客については平成3年をピークにその後減少が続き、平成18年の合併を機に若干の増減はあるものの増加傾向にはあったが、新型コロナウイルス感染症の影響が予想以上に長期化するなかで、令和3年も大幅な減少となっている。外国人宿泊客の推移についても平成24年3月から台湾への定期便が週三便就航、平成26年3月から香港への定期便が週二便就航、平成29年11月には韓国船が就航したことなどにより宿泊客数は年々順調に伸びていた。しかし、令和元年の韓国や香港といったアジアの国地域における社会情勢の変化、そして令和2年に入り新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、その影響の長期化により令和2年2月以降も外国人宿泊客の動きはない。

- ・視察結果、所感

新型コロナもあり、観光客の減少に苦しんでいる様子であった。予想以上に新型コロナウィルスの影響が大きい様子であった。うなぎ温泉郷まち歩きガイドに従い、案内していただいた。『西郷どん』の逸話が残っており、歴史と伝統が感じられた。

4. 熊本県菊陽町

- ・視 察 者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 熊本県菊陽町役場
- ・視察日時 令和4年7月26日（火） 午後3時00分から午後4時30分
- ・視察項目 企業誘致について
(現地視察)TSMC 熊本工場について
- ・説 明 員 熊本県菊陽町 経済部商工振興課企業立地支援係 川端 誠 氏

・菊陽町概要

菊陽町は熊本市の北東部に位置し、東には阿蘇の連山が眺望できる。東西 11.8km、南北 9.4km、総面積 37.46km²で豊かな自然環境に恵まれた町である。昭和 46 年の熊本都市計画区域編入後、熊本県一のマンモス団地武蔵が丘団地も建設され、急速に都市化が進んでいる。また、国道 57 号の沿道では土地区画整理事業も進み、新たな住宅地や商業地域が形成され、面積 97ha、計画人口 7,000 人の住宅団地「光の森」は、大型ショッピングセンターなどの立地により県内外から多くの人に移り住み、活気にあふれている。このようなことから人口も平成 27 年国勢調査において 40,984 人となり、増加率も全国 16 位となっている。

・視察目的

世界有数の半導体メーカーである『TSMC』が、何故熊本県の小さな町に来ることになったのか。そのことを調査するために視察を行った。

・要旨（報告事項）

『TSMC』とは世界最大の半導体製造会社である。株価の時価総額約 60 兆円、世界の半導体受託製造のシェアは 55%以上を占めている。半導体製造の最先端の技術を保有しており、多くの世界中の企業から頼れる存在である。台湾 10 か所、アメリカ 2 か所、中国 2 か所に工場を持つ。アメリカアリゾナ州、台湾高雄市にも政府の補助を受け、工場建設を計画している。世界的な半導体不足の中、半導体を確保することは困難になっており、半導体は戦略物資となっている。日本政府も経済安全保障の一環として半導体確保に努めている中、菊陽町に『TSMC』の出資会社が来るということは重要なことである。その投資子会社が『JASM』である。

『JASM』とは ジャパンアドヴァンストセミコンダクターマニュファクチュアリングのことである。『TSMC』が出資をし、それ以外にソニーが約 570 億円、デンソーが約 400 億円を出資して、投資総額は約 9,800 億円。その半分は国が支援する予定である。

・視察結果、所感

どうして、そのような世界的な半導体メーカーが菊陽町を投資先に選んだのか。熊本県菊陽町は熊本市からも近い。また、空港も近く立地的には優れている。また、地盤も強く災害も比較的少ない、そういった地域である。また、地下水が豊富にあり、製造業にとって不可欠な工業水は豊富にある。担当者はこのことを一番に上げていた。地元には理科系の学校も多く、理科系の人材を集めることにも有利な地域にある。また、ソニーコンダクターなど半導体メーカーも隣接している。さらには、熊本県が半導体関連企業の県内誘致を推し進めていることも大きい。そういった利点に加えて、菊陽町では市内の工業団地

の拡張も以前から推し進めていた。熊本県と菊陽町との情報の共有化も進んでおり、いち早く遊休地の情報を熊本県が掴むこともできた。そのようなこともあり『TSMC』のような世界的な半導体メーカーを誘致出来たものだと思う。

5. 熊本県

- ・視 察 者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 熊本県庁
- ・視察日時 令和4年7月27日（水） 午前9時30分から午前11時00分
- ・視察項目 企業誘致について
企業誘致に係る市町村との関わりについて
- ・説 明 員 熊本県 商工労働部企業立地課半導体立地支援室 元田 啓介 氏

・視察目的

熊本県菊陽町に世界的半導体メーカーである『TSMC』が来ることになった。熊本県が県を挙げて企業誘致を推進している。その成果が世界的な半導体メーカーである『TSMC』が菊陽町に 来ることになったと推測する。そのことを確かめるべくして熊本県を訪問した。

・要旨(報告事項)

熊本県の企業誘致の現状としては、重点ターゲットとして自動車半導体関連企業、研究開発部門、県南地域への企業誘致、新規成長分野、こういった重点ターゲットを絞り企業誘致を行っている。具体的な行動としては、新規事業開拓として、市町村企業立地課東京大阪事務所の効果的連携、企業立地促進補助金などの各種インセンティブ策の活用、受け皿確保に向けた取組として、頑張っている市町村への支援、民間空き物件の活用、誘致企業の遊休資産活用、新規工業団地整備などを行っている。

その結果として、企業誘致件数 最近の主な大型立地協定 平成16年度以降投資額50億円以上の例として、半導体関連として ソニー 大日本スクリーン テラプローブ 東海カーボン 東京エレクトロン 富士フイルム 日本合成化学工業 荏原製作所 自動車関連として本田技研工業 アイシン九州 アイシン高丘

その他、日立造船 ユニバーサル造船 ヤマエ久野 日本マイクロバイオファーマ 日本合成化学 コイケヤ

・視察結果・所感

熊本県庁職員と話をして感じたことは、非常に熱意がある。そのように感じた。熊本県は県知事をはじめ、企業に対しトップセールスを行っているということだったが、その熱意が職員からも伝わってきた。また、積極的に市町村に働きかけて情報を共有していた。

熊本県の支援としては、情報の提供のほか、県営工業団地の整備など積極的に企業誘致に力を入れており、その結果、多数の企業が新たに熊本県に立地することになった。また、補助金なども充実していた。何よりも前述したように、やはり企業を誘致するという熱意が一番感じられた。